

「平成29年度全国学力・学習状況調査」新城市の状況について

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、その結果を今後の教育活動に役立てていくことを目的としています。平成29年度の結果からわかる子供たちの状況を報告します。

	平均正答率(%)	
	小学校6年生	中学校3年生
国語A (主として知識)	全国 74.8	全国 77.4
	新城市 やや下回る	新城市 やや上回る
国語B (主として活用)	全国 57.5	全国 72.2
	新城市 下回る	新城市 同程度
算数・数学A (主として知識)	全国 78.6	全国 64.6
	新城市 下回る	新城市 同程度
算数・数学B (主として活用)	全国 45.2	全国 48.1
	新城市 やや下回る	新城市 同程度

平成29年度の学力・学習状況調査の結果から、今後の学習指導の取り組みについて、新城教育として次のような授業改善を行っていきたいと考えています。

**国 語**

授業で習得させるべき事項を明確にし、児童生徒の学習意欲を高める授業をめざして、教職員の教材研究を一層充実させる。

《基礎・基本の定着》

- 言葉に関心をもち、多様な語彙を習得するために国語辞典を活用する。
- 「書くこと」の指導を計画的に行い、その学びを活かす発表の場や機会を教育活動全般に位置づける。

《活用する力の向上》

- 文学作品では作品の主題や作者の思いを、説明的文章では重要なキーワードに着目させ、感想文や要約文を書く場面を増やす。
- 作文指導やノート指導をとおして、目的や条件に即した文章を書く力を育てる。

《学習意欲の喚起》

- 授業の終末に、次時への学習課題の提示を行うことで、家庭学習のモチベーションを高める。
- 授業と結びついた家庭学習や自主学習の内容や方法を提示する。

## 算数・数学

算数・数学の教科の系統性を踏まえ、算数的活動や数学的活動をとおして、数・量・図形についての感覚を豊かにする学習活動を展開する。

### 《基礎・基本の定着》

- 算数・数学的概念、用語、定義について具体的な実感をもって理解できるように、教材研究、教具の工夫などをする。
- 学習内容の系統性を生かして、児童生徒がつまずいたときに既習事項に立ち戻るなど、今後も継続して丁寧に指導する。

### 《活用する力の向上》

- 与えられた情報を正確に解釈し、的確に処理できるように、図や表などの活用方法について指導する。
- 授業の中で、ペア学習やグループ学習など児童生徒の意見を伝え合う場面を効果的に取り入れることで、論理的思考力や自分の考えをわかりやすく説明する力を養う。

### 《学習意欲の喚起》

- 日常生活と結びついた学習課題や、児童生徒にとって身近に感じる教材などを扱うことで、算数・数学で身につけた力を活用するよさを実感させる。

### 【学習および生活状況に関する質問紙調査の結果】

項目	児童生徒の回答の状況
今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国に比べ、児童生徒ともに参加している割合が大いに上回る
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか	「週に1～3回」「週に4回以上」と答えた児童が、全国に比べて上回っている。中学生は、やや下回っている
授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか	「あてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた児童生徒が、全国に比べて、下回っている
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒が、全国に比べて下回っている
家で学校の宿題をしていますか	「している」と回答した児童生徒が、全国に比べて、上回っている。中学生に関しては「している」「どちらかといえばしている」が、ほぼ100%を占めている
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	予習は、「している」「ほぼしている」と答えた児童生徒が、全国に比べて下回っているが、復習に関しては児童生徒ともに全国を上回っている

## 【児童生徒質問紙調査結果から今後の対策について】

児童生徒質問紙調査の結果から、地域の行事に積極的に参加する子供の姿を再確認することができました。多くの子が地域行事に参加している傾向は、過去5年間を辿ってみても常に75%を超える高い数値を継続しており、学校、家庭、地域とともに子供を育てる「共育」の精神が深く浸透していることがうかがえます。また、放課後や休日に図書館を週に1回以上利用する児童が全国に比べ高い傾向にあります。

一方で、授業の中で目標とまとめを書いたという回答が、全国に比べ低い数値を示していることが気になります。おそらく実際には教師は目標（めあて）も提示し、まとめとなる時間も設定しているはずですが、子供が自らの課題として目標（めあて）を意識し、自分の考えを振り返り、学習のまとめを行うといった主体的な学びではなかったため、このような回答となったことと思われます。今後の対策として、子供にとって興味関心がもてる教材の開発や、授業の終末場面で、子供が何を学んだかを実感できる振り返りの時間を設定するなど、子供が主体的に学習に取り組めるような授業を確立する必要があると確認しました。

また、文章を書くことに苦手意識をもっている子供が多いことがあげられます。自分の考えを文章で表現する力をつけるために、授業でのノート指導や作文指導や、家庭学習で行う日記への指導等の改善を図っていきます。

家庭学習をしている中学生の割合が全国に比べて高く、これが基礎学力の下支えとなり、今回の国語科、数学科の学力調査の好結果にも表れていると考えます。ただ、授業の予習をしている生徒の割合が全国に比べ低いことが課題となっています。家庭学習の具体的な取り組み方を示すなど今後も児童生徒に対して働きかけをしていく必要があります。

今後も新城市の子供のよい面を伸ばしながら、確かな学力を定着させる授業づくりをめざしていこうと考えています。

